SOCIAL ART Cafe

ネイティブカルチャーとしての神楽の現在形

ゲスト： **三上敏視**（音楽家、神楽・伝承音楽研究家）

ホスト： **大澤寅雄**（文化生態観察、九州大学ソーシャルアートラボ・アドバイザー）

2016.5.31(TUE) 18:30 open / 19:00 start

会場：九州大学大橋サテライト「ルネット」福岡市南区大橋１－３－27

入場無料（要事前申込み）

九州大学ソーシャルアートラボでは、毎回ゲストをお招きし、アートと社会の未来について語り合う「ソーシャルアート Cafe」を開催しています。今回は、細野晴臣さんとも活動をともにしているミュージシャンで、神楽研究家の三上敏視氏をお迎えして、文化と社会の関わりを観察している大澤寅雄氏とともに、会話しながら神楽の映像を鑑賞します。テーマは、「ネイティブカルチャーとしての神楽の現在形」。ネイティブ native という言葉には、「天然の、自然の、土地の、土着の」という意味が含まれています。全国各地に存在する多様な神楽を「ネイティブカルチャー」として捉え、さらに、その現在形のあり方（例えば、ポップミュージック、現代音楽、ダンスとのコラボレーションなど）について、語り、考えたいと思います。

2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、国際的な文化の交流や発信について関心が高まる昨今ですが、民俗芸能や伝統芸能は、この先、どのように変化し、現代芸術にどのように影響を与えていくのでしょうか。民俗文化や伝統文化に限らず、舞台芸術のプロデュース、文化振興、国際交流に関心のある方は、ぜひともお越しください。

三上敏視（みかみ としみ）

1953 年　愛知県半田市生まれ、武蔵野育ち。93 年に別冊宝島 EX「アイヌの本」を企画編集。95 年より奉納即興演奏グループである細野晴臣 & 環太平洋モンゴロイドユニットに参加。日本のルーツミュージックとネイティブカルチャーを探していて里神楽に出会い、その多彩さと深さに衝撃を受け、これを広く知ってもらいたいと 01 年 9 月に別冊太陽『お神楽』としてまとめる。その後も辺境の神楽を中心にフィールドワークを続け、09 年 10 月に単行本『神楽と出会う本』（アルテスパブリッシング）を出版、初の神楽ガイドブックとして各方面から注目を集める。神楽の国内外公演のコーディネイトも多い。映像を使って神楽を紹介する「神楽ビデオジョッキー」の活動も全国各地で行っている。現在は神楽太鼓の繊細で呪術的な響きを大切にしたモダンルーツ音楽を中心に多様な音楽を制作、ライブ活動も奉納演奏からソロ、ユニット活動まで多岐にわたる。また気功音楽家として『気舞』『香功』などの作品もあり、気功・ヨガ愛好者に BGM としてひろく使われている。
多摩美術大学美術学部非常勤講師、同大芸術人類学研究所（鶴岡真弓所長）特別研究員。

■申し込み方法

下記の項目を記載のうえ、メール・FAX のいずれかよりお申し込みください。また、ソーシャルアートラボ公式ホームページ内「CONTACT」からもお申し込みいただけます。

《記載事項》①氏名（フリガナ）　②電話番号　③メールアドレス

■問い合わせ先

九州大学ソーシャルアートラボ
TEL＆FAX　092-553-4552
E-mail：sal@design.kyushu-u.ac.jp
URL：http://www.sal.design.kyushu-u.ac.jp

SOCIAL ART LAB
FACULTY OF DESIGN KYUSHU UNIVERSITY

【主催】九州大学大学院芸術工学研究院ソーシャルアートラボ　【共催】公益財団法人福岡市文化芸術振興財団
【後援】日本アートマネジメント学会九州部会　【助成】平成 28 年度　文化庁　大学を活用した文化芸術推進事業